

■アメリカ国務省のデータ

表に示したのは、アメリカ国務省の外務研究所(Foreign Service Institute)が 1973 年に発表した外国語研修に関する報告である。この研修は週 30 時間の集中研修であり、研修生は国務省に採用されたエリート官僚である。訓練を受ける外国語は難易度によって 4 つのグループに分類されているが、そのうちアメリカ人にとって最も学習しやすい Group I と、最も学習しにくい Group IVを表示してある。ここには、研修生の言語適性によって達成レベルが異なることも示してある。言語能力レベルは、言語能力ゼロの Level 0 から、最高の educated native speaker's level である Level 5 までの間を 0, 0+, 1, 1+, 2, 2+, 3, 3+, 4, 4+, 5 の 11 段階に区分されている。このうち、Level 3 の言語能力は研修の最終目標と考えられるレベルである。

外国語の訓練期間と達成レベル

GROUP I Afrikaans, Danish, Dutch, French, German, Haitian, Creole, Italian, Norwegian, Portuguese, Romanian, Spanish, Swahili, Swedish				GROUP IV Arabic, Chinese, Japanese, Korean			
訓練期間(時間)	言語適性			訓練期間(時間)	言語適性		
	低	平均	高		低	平均	高
8 週(240 時間)	1	1/1+	1+	16 週(480 時間)	0+	1	1
16 週(480 時間)	1+	2	2+	24 週(720 時間)	1	1+	1+
24 週(720 時間)	2	2+	3	44 週(1320 時間)	1+	2	2+
				80-92 週(2400-2760 時間)	2+	3	3+

■識別できる英語能力と学習時間

表の Group IVはアメリカ人が日本語を学習する時の必要時間を示したものである。逆の見方をすれば、日本人が英語を学習するための必要時間を示しているとも言える。一般的に、日本人の英語学習はこれよりも時間数が少なくなることが予想されるが、大筋の目安はつけることができる。

言語適性の平均を見ると、訓練を開始して 480 時間後は Level 1 (survival level)に到達するが、これはほぼ日本人大卒の英語レベルと考えることができる。この英語能力が研修最終目標の Level 3 になるためには、1920~2280 時間かかる。日本人は、中学から大学卒業までに、実質 1000 時間程度の学校英語教育を受けているので、Level 3 に到達するためには、これの 2 倍の学習時間が必要ということになる。しかも集中訓練は普通の訓練の 1.3 倍程度効率がいいとされているので、これも勘案すると、大卒までの学校英語教育の 2.5 倍の学習時間が必要であるということになる。これは大変な量の学習時間である。

さらにこの内訳を見てみると、Level 1 から Level 1+ になるためには 240 時間、Level 1+ から Level 2 になるためには 600 時間、Level 2 から Level 3 になるためには 1080~1440

時間と、レベルが上がるにつれて目標達成のための必要研修時間は多くなる。これらのレベルを仮に TOEIC スコアに置き換えてみると、Level 1 は 400、Level 1+ は 500、Level 2 は 600、Level 3 は 900 といったところであろうか。これから分かることは、TOEIC スコアの 10 点、20 点といった差はスコア的には差があっても、英語能力的には差がないということである。

英語能力のレベルを知るためには TOEIC はきわめて便利なテストシステムである。しかし、いくら便利とはいえ、たとえば 3 か月ごとに受験するというのは、識別できる英語能力の伸びを知るという意味ではあまり感心しない。たとえ集中訓練を受けたにせよ、である。識別できる英語能力というものはそれほど簡単に伸びるものではない。たとえば、文法の勉強をし、単語を暗記すれば直ちに英語能力が伸びるということはない。これらの知識が沈殿し、意識しないで自由に使えるようになって初めて英語能力に反映されるからである。問題なのはスコアを上げるのではなく、英語能力を上げることなのである。

©1993 Yukio Saegusa